

◇インフルエンザ予防接種後の注意◇

子ども用

【インフルエンザ予防接種後の感染対策】

- ・インフルエンザの重症化防止に一定の効果はありますが、完全に感染や発症を防ぐことはできません。
- ・予防接種を受けてから免疫がつくまでに、2週間程度かかります。手洗いなど基本的な感染対策をお願いします。

【接種後の注意】

- (1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応(アナフィラキシー(※)やショック等)が現れることがあります。
接種医療機関で様子を観察するか、医師とすぐ連絡が取れるようにしておいてください。
※アナフィラキシー(短時間で現れるじんましんや唇が腫れる、息苦しさ、腹痛、嘔吐などのアレルギー症状)、ショック(血圧低下や呼びかけに応じないような意識レベルの低下)
- (2) 高熱やけいれん等が現われたときは、速やかに医師の診察を受けてください。
- (3) 注射ワクチンの場合…注射部位は清潔にし、もんだり、こすったりしないでください。
経鼻ワクチンの場合…弱毒性生ワクチンであり、飛沫又は接触によりワクチンウイルスの水平伝播の可能性があるため接種後1~2週間は重度の免疫不全者との密接な接触は可能な限り避けてください。
- (4) 予防接種をした日の入浴は差し支えありません。ただし、激しい運動は避け、静かに過ごしてください。

【副反応について】副反応は、24時間以内に出現することが多いです。この間は体調に注意しましょう

- (1) よくある症状…通常2~3日で治りますが、症状が強く出た時は、医師にご相談ください。
発熱や悪寒、頭痛、体がだるくなる、関節痛等／発疹、じんましん、かゆみ、紅斑等の過敏症状
注射ワクチンの場合…注射したところが赤くなる、腫れる、痛み等
経鼻ワクチンの場合…鼻水、鼻づまり、せき、のどの痛み等
- (2) 気をつけたい症状…すぐに医師の診察を受けてください。
アナフィラキシーやショック、急性散在性脳脊髄膜炎(発熱、頭痛、けいれん、意識障害等)、ギランバレー症候群(急に手足に力が入らなくなる、手足の先にしびれを感じる等)、高熱やぜんそく発作等

【健康被害が発生したとき】

予防接種が原因で、重い健康被害が発生し、予防接種と因果関係があると認められた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品副作用被害救済制度」が適用されます。健康課へご相談ください。